

## リメンバー名古屋10周年記念冊子

# 「自死遺族のあの日・自死遺族のその後(仮題)」原稿募集

2003年12月に第一回に分かち合いを開いたリメンバー名古屋は、この12月で10年の節目を迎えます。

そこで、これまで会に関わっていただいた皆様の思いを集めた、冊子制作を行うこととなりました。

※詳細な募集要項は、第2面に掲載

### 応募要件

【一般の部】…家族・友人・恋人など、大切な方を自死で亡くされた、概ね70歳以上の方

【リメンバーメンバーの部】…リメンバー名古屋の遺族会に参加したことのある方(年齢制限なし)

### 規定

「あの日のこと」「あの日の思い」「その後のこと」「その後の思い」「あの人への思い」をテーマに文章をお寄せください。詩、短歌など、短いものも可。

※掲載にあたり、内容、表現についてご相談させていただく場合があります。

## 11月24日 自死遺族向けセミナー

本年度の「愛知県地域自殺対策緊急強化基金」の事業として、下記のように遺族向けセミナーを行います。

- 日時：2013年11月24日(日)時刻は未定  
場所：愛知県産業労働センター  
・ (名古屋駅前)  
講師：臨床スピリチュアルケア協会副代表  
・ 桃山学院大学社会福祉学科教授  
・ 上智大学グリーンケア研究所客員研究員  
・ 伊藤 高章 氏

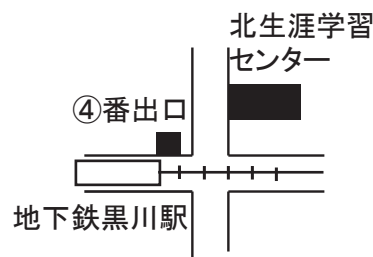
## 第18回秋の遠足予定

春・秋恒例の、第18回「秋の遠足」を、10月27日(日)に予定しています。

## 次回の遺族会

第59回

8月11日(日)13:15から  
名古屋北生涯学習センター  
地下鉄名城線「黒川」下車  
(4番出口)よりすぐ  
参加費:500円



その次は...

第60回 10月6日(日)。  
場所は北生涯学習センターです。

日程は、ホームページまたは、電話案内でご確認いただけます。  
パソコンの方

<http://will.obi.ne.jp/remember/>  
携帯電話の方

<http://www.will.obi.ne.jp/m/>  
電話案内(録音でのご案内)  
090-8544-9408

## 郵送先住所変更のお知らせ

2013年6月より、郵送先住所が以下のように変更になりました。今後は、以下までお送りください。

〒460-0003

名古屋市中区錦2-18-5 MBE178  
リメンバー名古屋 宛て

※郵便物は受取までに10日以上かかる場合があります。お急ぎの場合は、メールかFAXをご利用ください。

## 冊子原稿募集要項

### ■掲載について

テーマに適合した原稿の中から、冊子の構成上のバランスを考慮し、当会作文の会スタッフが選定申し上げます。寄稿くださった全ての原稿を掲載することができませんことを、あらかじめご了承ください。

### ■字数

字数制限は特に設けませんが、長い場合調整をお願いする場合があります。

### ■寄稿方法

できれば、ワープロファイルでお送りください。もちろん、手書きでも大丈夫です。

下記メールアドレスに送付、または、手書きの場合は、遺族会に持参していただくか、下記住所まで郵送してください。今後、ご連絡させていただく必要があるため、ご住所・お名前・電話番号・メールアドレスを必ずお知らせください（連絡が取れない場合掲載できない場合があります。情報の秘密は厳守いたします）。

また、今回は、冊子全体を通じて、きょうまでを過ごしてきた私たちの「時の流れ」を感じてもらえるような編集を目指しています。

いつごろ、どなた様を亡くされたのか、についても、差し支えない範囲でお書きください。

メール：remember\_nagoya@yahoo.co.jp

郵送：郵便：〒460-0003

名古屋市中区錦2-18-5 MBE178

リメンバー名古屋

### ■掲載時のお名前等

匿名、ペンネームで大丈夫です。どのように掲載するかご指定ください。

### ■冊子の配布など

遺族会、公共の場所、民間会社など、幅広く不特定多数に、無償、あるいは、原価程度を基本とした有償にて配布する場合があります。

### ■二次利用など

各文章の著作権は作者の方に帰属し、許可なく二次利用はいたしません。

新聞、ホームページなど、他媒体での引用依頼等があった場合は、その都度、作者の方に確認させていただきます。

### ■応募期限

2013年11月末

### ■発行時期

2014年3月を予定 ただし、寄稿数によっては延期する場合があります。

### ■発行部数

1000冊程を予定していますが、増減する場合があります。

※2011年3月発行  
「自死遺族の手紙」



## 自死遺族と宗教者による分ち合いの会「いっぷく処」

宗派を超えて集った有志の僧侶の方たちによる「自死遺族のわかちあいの会」が下記のように行われます。月曜日に行われます。

主催：いのちに向き合う宗教者の会

日時：2013年9月30日（月）

・ 午後2時から（開場は1時半）

場所：東別院対面所（名古屋市中区橘2-8-55）

・ （地下鉄「東別院」下車）

連絡先：info@inochi.in

## 曹洞宗「祈りの集い — 自死者供養の会 —」

東京ではありますが、「曹洞宗」の「祈りの集い」が下記のように行われます。

日時：2013年9月1日（日）14:00～15:30

会場：東京グランドホテル5階

・ （東京都港区芝2-5-2）

対象：自死遺族または知人を自死で亡くした方

・ 宗教宗派は不問ですが、供養は曹洞宗

・ の方法で行います

会費：無料

主催：曹洞宗総合研究センター

・ 「祈りの集い」実行委員会

申込先：〒105-8544 東京都港区芝2-5-2

・ TEL 03-3454-7170 FAX 03-3454-7171

・ E-mail inori@sotozen.jp

・ ※8月23日（金）までにお申込みください。

定員：30名

○当日参加出来ない方へ

亡き人へのお手紙やお名前などをいただければ、法要にてご供養いたします。亡き人へのお手紙や、ご供養のためになされた写経などもお送りいただければ、当日祭壇にお供えしてご供養いたします。お気軽にご連絡下さい。

※「わかちあいて何だろう」のインタビュー（メールで行います）にお答えいただける方、寄稿を募集しています。スタッフまでお知らせください。

## 寄稿

遺族の方々いかがお過ごしでしょうか。蒸し暑くそうかと思うと、スコールのような雨がザーと降り1日のうちでも天候が変わる日々です。体調は管理は十分でしょうか。遺族となり3年半が過ぎましたが、中学生の娘が6月あたりからだんだん学校に行かなくなり（行けないの。）不登校になっています。今は夏休みだから。

みんな休みだからいいけど、これからどうなるのかな。高校受験もあるし大人は親はいろいろ知ってるから考えちゃいます。

でも彼女は彼女なりに思うこともあるだろう。何が原因か分かりました。いじめなんで

す。学校への不信感がつのります。不安だけ娘を信頼したい私があります。もっと強くなってと言いたいけど、中学生だった私はどうだったろうか。学校には行くけど娘と似たり寄ったりの子供時代だった。こんな近況ですが彼女は今心が叫んでいます。助けてと。こんな経験なんてしたくないよ。何の意味があるの。ただのストレス解消なの。

そう私自身も配偶者が旅立ったことに何か意味があるの。世間ではあの事は負の遺産であるかのような捉え方を皆しています。その意味はなんだったのか今なお答えは出ていない。(S)

## リメンバー名古屋の10年を振り返って①

2003年12月に第一回のわかちあいの会を開いた「リメンバー名古屋」は、今年10年目を迎えます。会の初期のころから関わりのある人たちに、10年を振り返って、その思いを書いてもらおうと思います。

Sさんが「負の遺産」と書いておられるように、私も、死別後間もない頃から何年もの間、自分の親の死を“マイナス”と捉えていました。それは、世間がそのように見ていたということが大きく影響していたと思います。そして、親の自殺という“マイナス”を「プラスに変えないことにはこれ以上生きておれない」というせっぱつまった思いの中で、リメンバー名古屋を立ち上げました。神戸のメンバーや、非当事者スタッフに支えてもらいながら、名古屋ではたった一人からの呼びかけでしたが、「あの、代表なのに、あんなんで大丈夫かしら」と思ってくれた参加者の遺族の方が1人、2人とスタッフになってくださり、今日に至っています。

“マイナス”はどうだったのか、“プラス”になったのか。振り返って思ってみるに、“マイナス”は“マイナス”のままでした。しかし“プラス”のことも、あれから多くあったように思います。“プラス”と“マイナス”は、足し引きしてゼロにするものでも、変換させるようなものでもないな、と今は思っています。うちは、今年ようやく「あのときはみじめだったよなあ」と、身内同士で笑って話せるようになりました。ここまでするのに16年かかりました。時間はかかると思います。でも、時間がかかる分、深まってくもの（プラスのもの？）もまた多くあるのだと、信じていようと思っています。

(YT)

## 次回「ディアレスト」のご案内

日時：2013年9月22日（日）13:30-16:00

場所：名古屋市中村生涯学習センター

連絡先：the.dearest1@gmail.com

http://dearest.heya.jp

参加費：500円

対象：家族以外の人（恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など）を自死（自殺）で亡くされた方

## スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。

遺族会当日に、お茶の買い出し、参加者の案内など、継続的でなくても結構です。

詳しくはお問い合わせください。

## 新聞郵送をご希望の方へ

1月～6月末までのお申し込み（前期）…1000円 もしくは 80円切手13枚

7月～12月末までのお申し込み（後期）…500円 もしくは 80円切手7枚

お申し込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

## リメンバー文庫



## 新着本のご案内

昨年度の基金事業として行った、自死遺族向けセミナー（講師：藤丸智雄氏）の講演会の要旨が、「仏教は自死遺族を救うことができるのか」というタイトルで掲載されています。藤丸氏には、雑誌に掲載するにあたり、あらたに少し加筆していただきました。

昨年10月に急逝した、リメンバー神戸の良原誠崇さん（通称やん君）のお別れ会レポー

トも、巻頭のカラーページに掲載されています。

「貸出用」と「閲覧用」を2冊置いておきますので、どうぞご覧ください。

## 本の紹介

葬儀業界の専門雑誌

『SOGI』135号

（定価5,040円）（寄贈）

## りめんばー

宮崎駿監督の「風立ちぬ」という映画が、この夏公開されました。映画には「生きねば」というサブタイトルが添えられています。

原作のひとつである、堀辰雄の「風立ちぬ」は、個人的にとっても好きな小説です。先日、小説の読書会があり、誰も知った人もいない中、ふと思い立って参加してきました。

「風たちぬ、いざ生きめやも。」

小説に流れ続けるテーマです。この言葉は、ポール・ヴァレリーの詩の一部を堀辰雄が訳したものです。「生きめやも」は、文法的に正しいのか若干論争があるようですが、今回の読書会で、原詩を別の人が日本語訳したものをを見せてもらいました。

「風が起る……生きる試みをこそ。」

その本には、こう訳されていました。「生きねば」という強い意志とは違う、とてもあやうい印象を覚えます。

この小説は、昭和初期、高原のサナトリウムで療養する婚約者を、一緒にそこで暮らしながら看取っていく主人公が描く物語です。主人公にとって、つらくとも幸せ感さえ漂わせるような、二人の高原での療養生活が描かれています。

読書会の中で、小説の内容にからめて「自分も、妻を亡くした立場で……」と、つい言ってしまいました。初めて会った人たちの中でしたが、これからそう頻繁に会うことはないという人たちであったからこそ、言えたことでもあるのでしょう。また、「風立ちぬ」の読書会に集まるような人たちの中で、きっと伝わるものがあるという期待もあったのだ

と思います。

別のある10数名程の、それぞれの作った写真作品を発表する場で、「友人が数年前に自死して……」と言った人がいました。その人は最後の発表者で、どうしてもそのことを言わないと、自分の思いが伝わらないと感じたのだと思います。「友人が自死……」と言った人にも、そして自分自身にも、身近な人の死、自死というものは、その後の人生にとっても大きな影響を与えたのだと思います。周りのすべての世界が、「生死」のフィルターを通してしか見えなくなったようにも思います。その人は、続けて「生きる、死ぬということを考えて続けている」と言いました。見せられた作品は、とても苦しく、格闘しながら、あがいているその人の姿そのもののように思えました。

堀辰雄も、19歳の時、関東大震災で母を失い、22歳の時、指導も受けていた芥川龍之介の自死に大きな衝撃を受けたとされています。それらの死の経験が、その後の小説に大きく影響しているのは間違いないと思います。堀辰雄も、「生きる、死ぬということを考えて続けた」のだと思います。

「風たちぬ、いざ生きめやも。」

生きることを「試み」なければ生き続けられないあやうさの中、「生きる、死ぬということを考えて続け」ながら生きている、生きていた人たちは、自分だけではない、大勢いるのだと……。 「風が起る」時、この小説を思い出し、そんな思いになります。

(KN)